



#### □ 初雁城跡と本丸御殿

川越城の愛称である初雁城。別名を霧隠城ともいう。1457年上杉持朝が足利成氏に対抗するために太田道真、道灌父子に命じて築かせたもの。当初小規模だった城郭の面積は、江戸期に拡張されて5万坪余り、西と南の大手門をはじめ13門3櫓を持つ平城となった。江戸城の北の守りとして、また北関東の物資の集散地としての重要拠点だったことから、城主は代々幕府の重臣が務めている。現存する本丸御殿の建物は1848年に松平高典が築いたもの。16棟、0.25坪を誇った建物も明治6年の廃城後、現在では玄関と大広間ほか8間、家老詰所を残すのみ。

